

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大隅東小学校協議会

1 総括についての評価

昨年度の課題と成果を踏まえ、目標を設定して計画的に教育活動を推進していた。教育振興基本計画の目標の進捗状況としてまず、「安心・安全な教育の推進」については、いじめについての様々な取り組みや不登校対応に関係機関との連携等を通して、子どもたちが落ち着いて学校生活を送れていることがわかる。「学力・体力の向上」については、さまざまな取り組みの成果がでている部分もあるが、特に学力向上については、取り組みを継続する必要がある。「学びを支える教育環境の充実」については概ね目標を達成できていることが評価できる。

来年度も一層の学校力向上をめざして指導を継続してほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

学校の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」の設問に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする
- 大阪市学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問に対して、肯定的に回答する児童の割合90%以上を維持する。

【全市共通目標】

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問に対して、小学校学力経年調査（以下、経年調査）では、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は83.3%で目標（80%）を上回った。学期毎にアンケートを行ったり、職員会議後に行っている児童理解研修会や、月に一度の生活指導連絡会等を通したりして、いじめが起こっていないかどうか教職員全体で把握し、事象が起きた際には、組織的に対応できるようにしてきた結果である。また、「いじめについて考える日」を年度内に2回実施し、学校をあげて、いじめ撲滅を児童に訴えたことも奏功した。

【学校の年度目標】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問に対して肯定的な回答は、83.7%であり今年度目標（75%）および昨年度結果（78%）を上回った。「自分にはよいところがありますか」の設問については、72.7%の児童が肯定的に回答、今年度目標（75%）および昨年度結果（74.6%）を下回る結果となった。学校内で3学期に行った学校アンケートでは肯定的な回答

は 81.9%という結果であったが、自己肯定感を高める活動をさらに進める必要性を感じている。一方、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問に対しては、94.4%の児童が肯定的に回答していて目標（90%）を達成することができた。教職員が児童に丁寧に寄り添い、働きかけた成果である。また、今年度から注力をはじめたキャリア教育も児童へ徐々に影響をもたらしたことも考えられる。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

全市共通目標

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の設問に対して、最も肯定的な「思う」を回答する児童の割合を

30%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の設問に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上とする。

学校の年度目標

○学校アンケートにおける「国語の授業の内容はよく分かる」「算数の授業の内容はよく分かる」の設問に対して肯定的に回答する児童の割合を 80%にする。

○大阪市小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を前年度より 1 ポイント減少させる。

【全市共通目標】

朝学習や国語科を中心とした言語活動の充実など、継続的な学習活動に加え、物語文に関する読解力に着目した研究授業や漢字検定受験等の取り組みにより、国語科の肯定的回答が目標値を上回った。全市共通目標の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の経年調査における設問に対して、38.1%の児童が最も肯定的な「思う」に回答していて、目標（30%）を達成することができた。

一方、体力や健康について経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の設問に対して、71.4%の児童が最も肯定的な「好き」と回答していて、今年度目標（70%）および昨年度結果（67%）を上回った。日頃の体育授業に教職員が工夫をこらすなど尽力したほか、外遊びを奨励し、出前授業などで各種のスポーツ体験機会を増やしたことで、児童に運動することの楽しさに気づいてくれたものと感じる。

【学校の年度目標】

「国語の授業の内容はよく分かる」「算数の授業の内容はよく分かる」という学校アンケートの設問に対して、国語は 89.5%、算数 89.5%の児童が肯定的な「分かる」に回答していて、いずれも目標（80%）を達成することができた。

経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を前年度より1ポイント減少させるという目標については、国語では 4 ポイントの減少と大きく改善をみた。算数については、0.4 ポイントの微増であった。国語は研究授業として教職員が授業力を高めた成果と見ることができる。一方、算数については、さらなる注力が求められるため、習熟度別学習や少人数学習、チームティーチングなどの学習形態を実施し、きめ細やかな授業を進めていく。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

全市共通目標

○授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日は除く）

○第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を９０％以上にする（基準１＝時間外勤務時間が４５時間を超える月数を０、かつ、１年間の時間外勤務時間が３６０時間以下）。

学校園の年度目標

○学校アンケートにおける「読書は好きですか」の設問に対して、肯定的に回答する児童の割合を７２％以上にする。

○ゆとりの日を週１回設定し、学期はじめ・終わり以外の月は、月２回は定時に退勤することをめざす。

【全市共通目標】

全市共通目標の「授業日において（学校行事等で活用が適さない日は除く）、児童の８割以上が学習者端末を活用した日数が年間授業日の５０％以上にする。」は、この数値基準に沿えば、１５％であり、目標には届かなかったが、児童の７割以上が活用している日数は半数を越えており、活用率は低いというわけではない。今後も、毎日の心の天気の入力、デジタルドリル、調べ学習による利用はもちろんのこと、学習アプリの活用も拡げ、実質面で児童の学びにICTを活用する環境を拡げていきたい。

教職員の勤務状況に関して、大阪市の設定する「勤務時間の上限に関する基準１」を満たす教職員の割合を９０％以上にするという目標に対しては、９５％であり目標を達成している。

【学校の年度目標】

学校の年度目標の「読書は好きですか」の設問に対して、73.9%の児童が肯定的な「好き」に回答していて目標（72%）を達成することができた。しかし、高学年になるにつれて肯定的な回答が低くなってきているので、高学年の読書ばなれを改善するために、読書の楽しさを伝える場を設定するなどの施策が必要だと感じる。

「ゆとりの日を週１回設定し、学期はじめ・終わり以外の月は、月２回は定時に退勤することをめざす。」については、ゆとりの日を週１回設定し、各々が定時をめざして退勤しよう意識できている。加えて、今年度から「電話受付終了時刻１７時、閉庁時刻１７時１５分」の日を定期的に設け、保護者へメールにて事前通知することも始め、教職員が帰宅しやすい環境を整えた。

3 今後の学校の運営についての意見

専科指導や中学校の英語の先生が指導するといった特色ある取り組みを来年度も継続して学力の向上を図ってほしい。また、学習規律と学習習慣を適切に身につけ、学習に対する意欲や自信を持たせることで、子どもたちが自尊心をより一層高め、よりよい人間関係の中で学校生活を送ることができるようになることを期待する。

学力や体力の向上については、しっかりと説明を聞くことができたが、豊かな心の育成についての取り組みについても充実した取り組みを進めていただきたい。家庭や地域、関係諸機関と連携して様々な芸術にふれあう機会を増やしてもよいのではないかと思います。今後も学校と連携して取り組みを進めていきたい。

